



2月の平和祈念式（リモート開催）は、「原爆殉難者の碑」の目線からのお話が、6年生の川端先生からありました。

以下が、その概要です。

○私は、毎日、皆さんの登下校や体育の時間や運動場で遊んでいる様子を、黙って見えています。

○今日は、2年生の皆さんがお花を持って来てくれました。ありがとうございました。

○今日、私は、なぜこの場所に立っているのかをお話しします。

○今から76年前の8月9日、11時2分に、城山小学校から500m離れたところに原子爆弾が落とされました。長崎の街は一瞬で吹き飛ばされ、たくさんの方が亡くなりました。

城山小学校では、中学生や高校生などが働いており、嘉代子桜の林嘉代子さんもここで働いていました。28名の先生、そして105名の人たちが学校の敷地内で亡くなりました。城山小学校に通っていた子どもたちは、1400人以上が自宅などで亡くなりました。

○戦争が終わり、4年経ったころ、亡くなった方々の御冥福をお祈りするために、残されていた木の柱を使って「供養塔」が建てられました。これは、現在の体育館の近くにありました。

○その後、体育館を建てるために供養塔を動かさなければならなくなりました。そこで、当時の先生方や子どもたち、地域の様々な人たちの協力で、今の場所に私（原爆殉難者の碑）が建てられました。

○私は、いくつかの石の塊でできています。皆さんから見て、

- ・左側の立体は「遺族」を表しています。
- ・右側の塊は「人類」を表しています。
- ・上にある大きな塊が「殉難者（原爆で亡くなった方）」を表しています。
- ・後ろの壁は、「核兵器の恐ろしさと核兵器を持っている国に対する厚い壁を表しています。
- ・壁には、「み魂よ 安らぎて永久にましませ」と、「子らのみ魂よ」の歌詞が刻まれています。

○私には、このように、原爆でお亡くなりになった方や遺族の悲しみ、平和に対する思いが込められています。ですから皆さんは、毎月の平和祈念式のたびに私の方を向いて平和を願う黙祷をしているのです。

○皆さんにお願いが二つあります。この運動場には、たくさんの方の命が眠っています。その場所で、お菓子を食べたりジュースを飲んだり、ごみを捨てたり、唾を吐いたりしないでほしいのです。ときどき、ごみが捨てられていることがあり、とても悲しくなることがあります。

もう一つは、「自分の身の回りにいる人に、優しくできる人になってほしい」ということです。私は、皆さんが元気に楽しそうに遊んでいる姿、友達に「大丈夫」とか「一緒に遊ぼう」と優しく声をかけている姿を見るのが大好きです。

○目の前の人を幸せにできなければ、身近な平和がつかれなければ、遠くの戦争をとめることはできません。

○もっともっと優しさがあふれる場所になってほしいと願いながら、これからもこの場所で、皆さんの姿をじっと見つめていたいと思います。

